

未成年でも楽しめる地方競馬の魅力

洲本高校総合探究類型 居神軍次

研究動機・目的

中学生の時に競馬に興味を持ち、レースの予想をしたり、競走馬の魅力を感じていく上で、勝敗を予想する以外にも楽しめる方法があるのではないかと思います、またそれによって競馬に対して良いイメージを持つ人が増えるのではないかと考えた。そして、良い印象を持つ人が増加すると、競馬は地域活性化にも利用できるのではないかと考え、研究を始めた。

研究方法

- 昔淡路島に存在していた競馬場について調べる
- 競馬に対してどんな印象を持っているか洲高生にアンケートをとる
- 地方競馬、中央競馬の売上、入場者数の合計、平均、相乗(変化率)を求め、データを比較する
- 現存する兵庫県内の地方競馬場と他県の地方競馬場の特徴を比較する。



競馬場が現在抱えている問題&対する取り組みを考える

結果

- 淡路島の競馬場の歴史
元々三原町(現南あわじ市)と洲本市に競馬場が設置されていた

淡路競馬場→1929年に開場。開設当初は賑わっていたが、離島である面や経済面で徐々に客足も減って営業困難に陥り、1949年に廃止



淡路競馬場跡地図

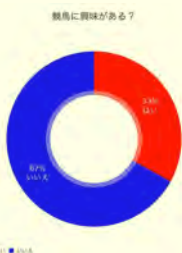
三熊山競馬場→大正元年、馬の飼育の発展を目的に開場。しかし、淡路競馬場と同様経済的理由で昭和36年に廃止



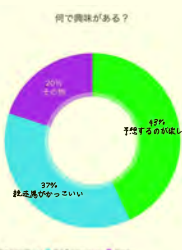
三熊山競馬場跡地

●アンケート結果

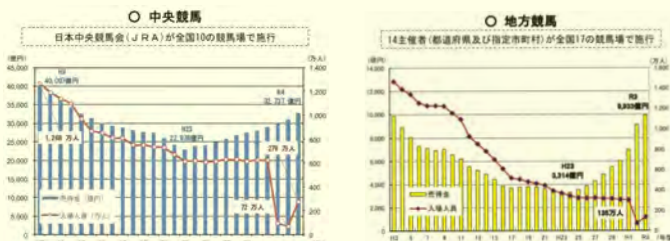
・競馬に興味を持っているかの有無の割合
「いいえ」と回答した人が圧倒的に多い
=地方競馬が衰退している原因?
若者向けの競馬の盛り上げ方を考える



・興味がある理由の割合(はいと答えた人のみ)
予想で楽しんでいる人、競走馬がかっこいい
と思っている人がほとんど
いいえと答えた人→良くない印象(ギャンブル
イメージ)を持っている?
予想以外に楽しめる方法を考える
次回、アンケート内容を改訂しもう一度実施



●データ統計(1991~2022年間の全国の地方・中央競馬場)



↑地方競馬と中央競馬の売上と来場者数の比較

	合計	相加平均	相乗平均
地方	約8兆円	約5000億円	約4000億円
中央	約128兆円	約1兆円	約8500億円

	合計	相加平均	相乗平均
地方	約4000万人	約250万人	約230万人
中央	約6億人	約800万人	約680万人

- ・売上と来場者数ともに中央の方が多いが、来場者数はどちらも年々減少傾向(R2からは少し増加)
→ウマ娘などの競馬関連アプリの普及や地方競馬法の改正が原因?
- ・H24から売上が急激に増加→ネット投票の普及が考えられる
- ・来場者数をもっと増加させる方法も考える

- 兵庫県内競馬場と他県競馬場の特徴(サービス)の比較
現存する兵庫県内の地方競馬場→2ヶ所(園田、姫路)
園田→無料送迎バスのサービス、児童公園の設備
姫路→コース内側にてイベント等に使用可能な芝生広場、児童遊園が併設

兵庫以外の地方競馬場→神社の設置、レース休止時のフリーマーケット開催、母子家庭のための母子福祉売店サービス、レストラン・レジャー施設・商業施設などの設備
etc...

主に児童向けの施設が多い→商業施設等の若者向けのサービスも導入すればいいのではないかと

●問題点&取り組み

- ・現在の競馬場の問題点
ギャンブルとしての依存性、劣悪な環境=若者の競馬離れの原因?
売上、来場者数の減少による経営続行の困難
- ・依存症→ギャンブル依存症対策に基づき、相談窓口、SNSを利用した啓発活動を実施
- ・環境問題→ポスターなどで呼びかけ、定期的な清掃ボランティア活動

☆提案☆

- ・兵庫県内の地方競馬場にはない他の地方競馬場のインフラ設備などを導入(商業施設、レジャー施設、休園でも入れるレストラン など)
→観光集客施設としても利用しやすいようにする
- ・兵庫県内の競馬場で引退馬などを活用したふれあい体験やスポーツイベントなどを開催→地域活性化につながる?

今後の展望

地方競馬の地域活性化に関する提案はできたが、データ不足で補えない部分もあるので、より多くのデータを収集し、競馬を楽しむ方法を考える。また、自分の住んでいる地域の近辺に競走馬を育成している施設があるので、そちらにも地方競馬の状況について話を伺う。

参考文献 ・ふるさと 市のかたりべ 市地区公民館
・競馬場のイベント開催がもたらす地域活性化の可能性 会津大学 小林裕次郎
・地方競馬のあらまし keiba.go.jp
・競馬活性化計画 <https://www.keiba.go.jp>